

広島県教育長、計 4000 万円の事業発注した社

長を自宅に複数回泊める 県教委が内部調査へ

16:22 (最終更新: 16:40)



広島県教委は 15 日の県議会文教委員会で、平川理恵教育長と親交のある大阪市の業者に委託事業の発注を繰り返し、業務で広島市を訪れた同社の女性社長を平川氏が自宅に泊めるなどしていたと明らかにした。契約額は計約 4 千万円に上る。県教委は「利害関係者との付き合い方が不適切だった」とし、業者選定の公正性を巡り内部調査する方針を示した。

県教委によると、2019 年度以降、大阪市の教育コンサルタント業「キャリアリンク」に情報通信技術 (ICT) を活用した教員研修や高校でのグローバル人材の育成など 12 事業を委託した。契約額は計 3977 万円で、うち 8 事業は入札を経ない随意契約だった。また 18 年度以降、社長に教員研修などの講師を 76 回依頼。報償費約 200 万円を支払っていた。同年度に教育長に就いた平川氏が「キャリアリンク」の社名を口に出すまでは、県教委と本社との取引はなかったという。

平川氏は横浜市立中の校長を務めていた 13 年ごろから社長と付き合いがあり、2 人は同時期中教審の委員を務めたこともある。県教委は、平川氏が社長を自宅に泊めたり飲食を共にしたりしたことが複数回あったとしている。

週刊文春の電子版が 14 日、平川氏と社長の親密ぶりを報道。平川氏が 15 日の県議会文教委で「繰り返し県民の皆さまに疑念や不信感を与える内容が報道で指摘され、反省している」と陳謝した。県教委はこのほか契約への疑義が指摘された学校図書室のリニューアル事業を含め、実態を調査する考えを示した。

県教委の委託事業を巡っては今年 6 日、外部専門家による調査報告書で平川氏と親交のある NPO 法人パンゲア (京都市) との 20、21 年度の 2 件の契約で不正な手続きがあったとして、官製談合防止法違反や地方自治法違反を指摘されている。(久保友美恵)